



学 校 通 信

平成28年度 第 3 号
平成28年 6月 1日
練馬区立開進第三小学校
校 長 土 屋 信 行

成 長 す る チ ャ ン ス

校長 土屋 信行

新しい学年・学級になり、2ヶ月が過ぎました。私の耳にも直接、間接に保護者の方のいろいろなお話が聴こえてきます。その多くは、子供たちが新しい環境にとけ込み、張り切って過ごしているというような嬉しい話ですが、いくつか心配な点もお有りのようです。「前と今の担任（専科）の指導法・子供への接し方の違い」「クラス替えその他による友達関係の変化」代表的なものはこの二つです。

私たちの周りには、環境や人間関係が変わっても、あまり影響を受けずに過ごせる人とかなり左右される人がいます。この違いは何なのでしょう。それは、変わることを当たり前と考え、その中でも自己実現を図ることができるか否かによるところが大きいと私は思っています。また、低学年の子供でしたら、変化に対する経験の不足から不適応を起こすこともあるのでしょうか。

「厳しく指導された時はきちんとやっていたが、そうでなくなったらやらなくなった」その反対もありますね。「今まではほとんど注意されなかったけれど、叱られるようになったのでびくびくしている」友達関係では、「〇〇ちゃんと一緒にだったから楽しかったが、今は離れたからつまらない」反対に、「〇〇ちゃんがいなかったから思い通りにできたが、今は一緒になったので困っている」

これらの事象には、どれも「自分」が感じられません。本来ならば、どの場所でも、誰とでも、自分がやるべきこと、自分が「正しい・善い」と判断したことを行動に移すことが望まれます。しかし子供たちには、まだ自立心が不足しており、「快・不快」の感覚や他律的な判断に頼って言動を決定しているのでしょうか。

これを指導していくのが、家庭教育であり、学校教育なのだと私は考えます。子供たちの発達段階や個人差も考慮し、少しずつ他律から自律への道を歩ませること、それが自立した大人になることに繋がるのではないのでしょうか。

学校側も、それぞれが信頼を得られる教師になるため、指導力・授業力の向上を目指し日々努力いたします。何かお気付きの点がありましたら、担任、学年主任、そして管理職へご連絡ください。疑問点、ご不明な点は、改善を図るよう、皆様とのコミュニケーションを大切にしていきたいと思っています。

子供たちにかかわるすべての大人が、どんな出会いも一人一人の人間性を磨くための、成長するためのチャンスなのだという意識をもって、子供たちに接していただけたら幸いです。みんなの子供をみんなで育てていきましょう。今後ともご理解・ご協力の程宜しく願いいたします。

